

安曇野屋敷林 サポーター通信

発行日/2016年8月10日

編集・発行/屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト

連絡先/安曇野ブランド担当 ☎0263-71-2053

<http://keikan-azumino.net>

第18号



「私のおすすめの屋敷林考」

等々力 秀和

皆さんは、屋敷林といえど何が頭に浮かびますか？
きっと本棟造りの大屋根の家があり、大きな杉やケヤキ
の家を思い浮かべるのではないのでしょうか。

自分の家は見て決して本棟ではなく、ツーバイフォー
の家で、家の周りにはナラ、くぬぎ、カキ、ハナミツ
キ、コーヤマキの林で、高さが10m位の雑木林で覆われ
て、道からは家が、夏は見えません。私からすれば、立
派な屋敷林でほとんど手間がかかりません。冬になれば
葉が落ちて、冬の日を受けて温かくて、夏は太陽を避け
て涼しさを与えてくれています。秋は、キウイフルーツ
がいっぱいになって、バケツに収穫するほどで、柿も甘い
のがたわわに実り、孫が楽しみに取りに来ます。栗も梅
も、自家用で十分です。手入れもいらず、多くの楽しみ
をもたらす、色々な花が楽しまれ、鳥も最近ハトが巣を
作っています。ローゼンカツラが今花盛り。みょうがは
キュウリと混ぜて美味しくいただいています。これからは
若い人たちが自分の家づくりを思うとき、こんな屋敷
林もいいもんですよ。

決して大きな林でなくても、松やケヤキがなくても、
子供や自分もそこに住んで楽しみが多く、目にも心にも
、腹の中も満足な家に私は住みたい。

最近我が家には、孫が喜ぶ事ができました。それはク
ヌギの木に、カブトムシ、クワガタがたくさんいて、来
る度に捕って帰ります。発見した時の孫の顔が何ともい
いじゃありませんか。

夏も秋も冬も春も、その時々花も葉も楽しませてく
れて、涼しさを与え、風もよけてくれて「いいじ〜こん
な林も、もうじきカキが色づき、キウイが採れるな〜」

冬は、家の中は薪ストーブのおかげで灯油は買ったこ
とがありません。少々ずくがいますが、庭師さんや大
工さんが廃材を持って来てくれるので、当分は薪の心配
はいりません。たまには、薪ストーブの上で、煮た『煮
物』で一杯もいいもんだじ。

今年も涼しい家の中で過ごしたいもんだいねえ。

それじゃ、又ね。あばね



カブトムシの木

屋敷林保全事業立ち上げのあの頃（その2）

中沢 倫明

前回（第14号）では、屋敷林保全事業立ち上げまでのいきさつを紹介しましたが、今回は具体的な保全事業の取り組みを述べていきたいと思ひます。

まず、屋敷林の実態を知るために関係者との意見交換をしようということで、屋敷林所有者、造園業者、市町村の景観担当者や景観サポーターの皆さん達と勉強会を数回行いました。この勉強会の中で、所有者にとって屋敷林の維持管理には大変な御苦勞があること、また、その費用もかなりの額になる実態を聞くことができました。

一方で、屋敷林は北アルプスと田園とセットになってこの地域の景観を形成している重要な要素であること、しかしながら、近年伐採されている屋敷林も多く、何らかの対策が必要だろうというのが参加者の一致した意見でした。

また、この松本・安曇野地域にどの位の屋敷林があるのか把握するための調査も行いました。当時、県では行政パートナーというかたちで嘱託職員を募集しており、その中で屋敷林調査を担ってもらえる調査員が必要になりました。この調査員が、現在、屋敷林と歴史的まちなみプロジェクトと一緒に活動している権藤君(現安曇野市役所)です。

実際の調査は、各市町村の屋敷林がある区域の現地調査を行って住宅地図に落とし込み、写真を撮ってそれを持ち帰り、スキャナで読み込んで屋敷林マップを作成していくという非常に地味で根気のいる作業です。この大変な調査を権藤君はコツコツ続けてくれ、市町村毎に素晴らしい屋敷林マップに仕上げてくださいました。完成した屋敷林マップを各市町村に届けると、担当者は自分達の住んでいる地域にこんなに屋敷林があったのかと皆一様に驚いていました。この屋敷林マップが、その後の事業PRに大いに役立ったことはいうまでもありません。

このような下準備もしながら、屋敷林の登録制度と枝打ちの補助という二本立てを事業の中心とした屋敷林保全事業がスタートしました。ただ、今ではこの地域で馴染んでいる「屋敷林」ということばも、当時は一般住民からすると、「何それ？」という感覚で、なかなか受け入れてもらえず苦勞しました。屋敷林ということばの意味をまず住民に分かってもらい、なぜ保全していく必要があるのかを理解してもらうことは、砂漠の中を当てもなく地図やコンパスも持たずに歩いているようなものでした。

それでも事業のポスターやチラシを作成してPRに走りまわっているうちに、我が家の屋敷林を登録したいという相談も少しずつ出てくるようになりました。最終的に登録に結びつき、エンブレムを渡したときに喜んでもらったときは、ああ続けてきてよかったなあと思えるようになりました。

すべてが更地となってしまうケースが多いそうだ。

また、熱心な景観サポーターの皆さん方の応援のおかげで、初年度は100件弱の屋敷林登録をすることができました。

2年目になると、枝打ちの補助申請もかなり出てくるようになり、事業も軌道に乗りつつありました。

事業を通していろんな屋敷林所有者の方々から話を聞く機会がありましたが、維持管理が大変だからはやく切っ

てしまいたいという人もいれば、我が家の大切な財産だからとにかく大事にしていきたいという人、大事にしたい気持ちはあるが後世に託していくのは難しいなど、その考え方も様々でした。

そのような中、来年度の予算要求の準備をしていた秋頃、県庁から当事業を廃止する方向である旨の連絡がありました。県議会の一部議員の反発があったということ、また、県の上層部で本事業に否定的な意見があったということですが、松本地方事務所としては到底承服できることはありません。その後、県庁と地方事務所との激しいやり取りがあったのですが、最終的に県庁の意向を呑まざるを得ない状況に追い込まれたのです。

私はこの年を最後に下伊那へ転勤となったのですが、登録を受けた屋敷林所有者や当事業を応援してくれた皆さん方に申し訳ない気持ちで一杯でした。

その後、当事業のサポートをしてくれていた場々さん(現プロジェクトリーダー)から、屋敷林とまちづくりプロジェクトを立ち上げるので参加しないかとの誘いをうけ、今に至った次第です。県の事業としては数年で終了したにもかかわらず、このようなかたちでプロジェクトのメンバーの皆さんが屋敷林保全活動を進めてもらっていることは、本当にありがたく思いました。

以後私も県内での転勤が続き、積極的なプロジェクトへの参加がなかなかできませんでしたが、地元にいる間は少しでも屋敷林保全活動に貢献ができればと考えている今日この頃です。



梓川の屋敷林



梓川の屋敷林